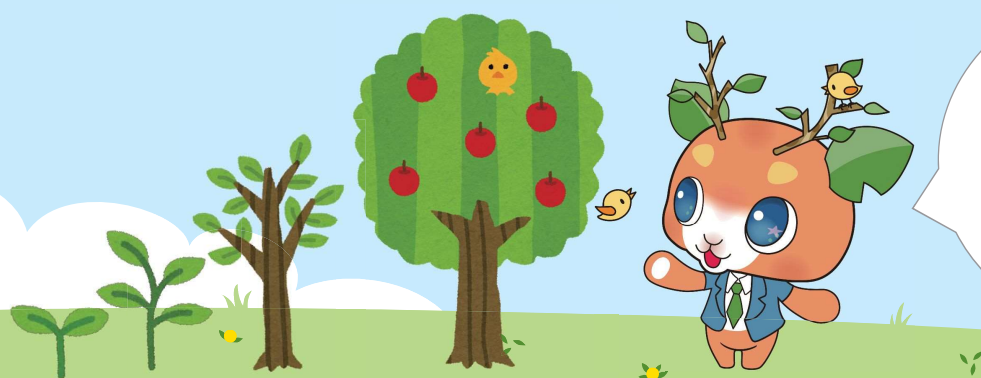


令和6年度

エシカル消費のタネ

消費者標語

入選作品集



みんながくれた
アイデアのタネ、
大切にするよ！

小学生・中学生・一般



京都市
CITY OF KYOTO

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

京都市は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

目 次

◆ 令和6年度「エシカル消費のタネ」 標語募集について……………	1
◆ エシカル消費を実践してみよう！……………	2
◆ 入選作品	
小学生の部（京都市長賞1点、優秀賞1点、奨励賞5点）……………	3
中学生の部（京都市長賞1点、優秀賞1点、奨励賞9点）……………	5
一般の部（京都市長賞1点、優秀賞1点、奨励賞1点）……………	8
◆ 審査講評……………	9
◆ 募集概要及び応募状況……………	10

令和6年度「エシカル消費のタネ」 標語募集について

「エシカル消費」とは、人や社会、環境、地域に配慮した消費行動のことを言います。

みなさんは、商品を買う時、何を考えて選んでいますか？「価格」「品質」「安全性」も大事ですが、環境を守り、人の権利や幸せを思いやる消費の仕方もあります。

現代に生きる私たちは、どの「消費」をとっても世界とつながっています。「売り手よし」「買い手よし」「世間よし」の「三方よし」を発展させ、さらに「作り手よし」「未来よし」を加えた「五方よし」を目指すのが、これからの「エシカル消費」です。

この作品集には、応募いただいた作品の中から、審査委員が選考した入選作品を掲載しています。数々の個性あふれる作品や、その作品に込めた思いなどを記したコメントから、受賞者の豊かな感性に触れていただくとともに、「エシカル消費」について考えていただく契機としていただければ幸いです。

令和6年度 募集テーマ

- ① 地産地消
- ② エシカル消費を広めよう

エシカル消費を実践してみよう！



『地産地消』

地元でとれた食材や製品を選んで消費することだよ！

- ・地元産の物を地元で消費するので、輸送に伴うコスト・CO₂排出が減らせる
- ・地域の生産者を応援できる
- ・地域経済の活性化にもつながる



エシカル消費って奥が深い！



『3R』(スリーアール)

- ・R (リデュース) とは、物を大切に使い、**ごみを減らすこと**
- ・R (リユース) とは、使える物は、**繰り返し使うこと**
- ・R (リサイクル) とは、**ごみを資源として再び利用すること**



えしかりん



えしかるん

小学生の部

京都市長賞

テーマ①「地産地消」

ぼくの土地で とれた野菜を のこさずに

吉田 祥（伏見板橋小学校3年生）

たとえば、外国から来た野菜は、船などで運ばれるため石油をたくさん使うけど、自分の地域でとれた野菜は近くなのでエネルギーをあまり使わないし、新せんです。その野菜をのこさず食べることで、石油などのエネルギーを使う量を減らすことができると思い、このひょう語を思いつきました。

優 秀 賞

テーマ②「エシカル消費を広めよう」

買い物に いっしょに行くよ エコバッグ

山崎 悠理（高倉小学校6年生）

いつも買い物に行くときにエコバッグを使っているので、みんなにも使ってほしいと思いました。

テーマ①「地産地消」(2作品)

環境と 鮮度守るよ 地産地消 加藤 多恵(養正小学校6年生)

地産地消は私たちにも環境にも良いんだということを伝えようと思って書きました。

いただきます お膳の宝石 京野菜 木村 百花(朱雀第八小学校4年生)

「地産地消」については、学校の「和みこんだて」の時に放送があるので言葉と意味は知っていました。地いきの野菜などを地いきで消ひすることです。

学校の給食の「和みこんだて」では、いつも旬の京都のお野菜などが出てきます。食べやすく味わえるように給食調理員さんが一所けん命作ってくださっていて、放送では「カツオ節で風味をつけたりすることで、より素材の味がわかります」と流れています。どれもすごく美味しいです。

2年生の時には学校から「ずいき祭」の「ずいきみこし」の見学に行きました。「ずいき」は京都のお野菜「えびいも」の「じく」の部分の事だと、その時はじめて知ったのを覚えています。標語を考えて思い出しました。

「地産地消」という言葉は小学校でよく聞くけれど、家族は「あまり聞かないなあ」と言っていました。たしかにスーパーにも地元の野菜と書いてあるけれど「地産地消」と書かれていません。

もっとこの言葉が広がって地いきのお野菜を地いきの人が買って食べてくれたらいいなと思ったので「地産地消」についての標語を考えてみました。

テーマ②「エシカル消費を広めよう」(3作品)

てまえどり 未来のために 心がけ 青山 龍海(養正小学校6年生)

てまえどりが、未来をかえると信じて、この文を書きました。

食品ロス 減らせば変わる この世界 久保 朱織(京都文教小学校5年生)

一人一人が食品ロスをしないようにすれば世界が変わると思ったから。

お母さんに エシカル消費 伝えたい 土淵 陸(京都文教小学校5年生)

お母さんは、エシカル消費を知らないから。

中学生の部

京都市長賞

テーマ②「エシカル消費を広めよう」

知ることが 未来へつながる エシカル消費

山口 綾那（修学院中学校2年生）

買い物、食べること、物を使うこと、私たちは毎日、多くの消費をしている。日々の買い物を通して、その課題のために自分で、何ができるのかを考えてみるのが、第一歩です。1人1人がエシカル消費をすれば、さまざまな問題を解決できると思いました。

優 秀 賞

テーマ①「地産地消」

買ってみて 知れる学べる 我が地元

松尾 海翔（洛南中学校2年生）

地域の農作物について学び、意識すると京都産のものもたくさんあり、もっと地元のことを知りたいと思った。

テーマ①「地産地消」(3作品)

みな笑顔 野菜は地域で 召しあがれ 橘 陽鞠(洛南中学校2年生)

生産者も消費者も両方にとってメリットがたくさんあり、みんな笑顔で野菜を地域で食べてほしいという思いがあります。

買い物で 産地に注目 地産地消 中山 碧(修学院中学校2年生)

普段の買い物であまり見ることがない産地に注目して、積極的に地産地消をしよう!という標語です。

地のものを 地元で食す ありがたみ 高岡 真太郎(京都文教中学校1年生)

食文化ミュージアムから京都中央市場の見学へ行かせてもらった時に、京都の伝統野菜が「京のブランド産品」として販売されていると知りました。また、近郊農業についても教えてもらいました。

新鮮な京野菜は京都にいないとなかなか食べることはできないので、新鮮な伝統野菜が美味しく食べられることに感謝しました。近郊農業についても輸送費を使わないことで二酸化炭素削減にもなり、エコロジーに貢献できると思います。



テーマ②「エシカル消費を広めよう」(6作品)



どれにする エシカルメガネ 忘れずに 大塚 陽一(下京中学校2年生)

お店で商品を選ぶ時値段だけでなく、産地や環境など倫理的な視点で商品を選ぶことが大切だと思います。

その行動 エシカルしてる? 考えよう 内藤 蒼天(洛南中学校2年生)

エシカルとは「環境や社会、人にはいりよしていること」という意味で、「ものを買う」「ものを消費する」という面においてエシカル(環境にはいりよ)しているかどうか考えてみてという思いをこめて考えました。

買い物は 未来に1票 投じてる 武内 菜穂子(修学院中学校2年生)

エシカル消費とは、人や社会、環境、地域に配慮した消費のことです。買い方にもフェアトレードなどの生産者への適正な価格の支払いなどができる商品を選んだり、災害などで被災してしまった地域の商品を購入することで、その地域が活性化したり、弱い立場にある国の人々や社会がよりよくなります。私も価格だけで物を買ってしまっていることがときどきあるので、買い物は未来の世界中の人々のために、今よりもっとよくしたいという気持ちに1票投じていることと同じ意味になります。だから、買い物をするときには、その1票を投じる責任をもって購入してほしいと思いました。

知ることは 1番最初の エシカル消費 杉山 孝輔(修学院中学校2年生)

どんな対策をするにもまずは、知ることが大切だと考えました。

人と地球 みんなを想う 消費社会 山田 直輝(大枝中学校1年生)

SDGsのように人も地球の環境、自然もみんなを想った消費社会をつくりあげることが、環境を守ることにつながり、それこそがエシカル消費だと思ったから。

えっ知らない! 買った物の ルーツまで 藤野 朔(下京中学校1年生)

「エシカル」で始まるあいうえお作文風につくってみました。買い物するときに、その商品がどこでどのようにつくられたものか意識することはありませんでした。これからは地元でつくられたものやフェアトレードマークがついた商品を選んで買うようにしたいです。

あいうえお作文、
ありがとう!



一般の部

京都市長賞

テーマ②「エシカル消費を広めよう」

あなたの手 未来の地球を 選んでる

筆口 智子

日々の買い物は投票だと言われるように、毎日選ぶものの基準を、おいしさや便利さだけでなく、他者や地球を想った消費になれば、大きな行動は起こせなくても、あなたも小さな一歩が始められるという意味をこめました。

優 秀 賞

テーマ①「地産地消」

地産地消 エコな私の マイルール

野田 なつこ

自分でできる小さなルールを標語にしました。

奨 励 賞

テーマ②「エシカル消費を広めよう」

手前取り エシカル消費の 第一歩 野田 なぎさ

スーパーで手前取りを呼びかけられ、実践しています。
エシカルに一役買っている気がしています。



令和6年度「エシカル消費のタネ」審査講評

審査委員 講評

京都市小学校家庭科教育研究会会長 中村 薫

今年度から、「エシカル消費のタネ」と題して、消費者標語を募集することになり、小学生、中学生、一般の皆様方から、数多くの作品を応募していただきました。「エシカル消費」とは、人や社会、環境、地域に配慮した消費のことを意味し、私たちは誰もが、物を買って、使い、捨てている消費者なのです。世界中で起こっている「貧困」「人権問題」「自然破壊」などの大きな問題を身近な『買い物』を通して、解決に関わっていくことができるのです。「買い物で未来の社会を変えることができる」って、素敵だと思いませんか。SDGsの12番目の目標「つくる責任 つかう責任」にもつながります。

今年は、①地産地消 ②エシカル消費を広めよう と2つのテーマにそって、作品を作ってもらいました。「地産地消」では、取れたて食材の新鮮さやおいしさに魅力を感じている作品が印象的でした。「エシカル消費を広めよう」では、自分から率先して行動することを題材とした作品や学習したエシカル消費のことを家族や身近な人に伝えたいという気持ちが感じられる作品がたくさんありました。できることを無理なく実践していくことが、大切です。この標語をきっかけに多くの皆さんが「エシカル消費」のことを考え、行動してほしいと思います。

審査委員 講評

京都生活協同組合 副理事長 姜 美名

「エシカル消費のタネ」消費者標語の審査に関わらせていただきありがとうございました。

テーマ①「地産地消」では、小中学生のみなさんが、給食の和みこんだてで京野菜とおばんざいに親しんでこられ、学びにもなって心に残っていることが伝わってきました。みなさんがおいしく食べている光景が目には浮かぶようで、あたたかい気持ちになりました。私の住む伏見区には、住宅街の中に畑を見かけます。そばを通りかかるひときは、この畑からもお店の地産地消コーナーにお野菜が来ているのかな、と想像し、農家さんに感謝する時間になっています。私たちの近くにいらっしゃる京都の農家さんを応援したいと思います。

テーマ②「エシカル消費を広めよう」については、私が小学生、中学生のころはまだエシカルという言葉はなく、日常の中で物を大事にしようね、とは伝えられていたけれども、その先まで考えられていなかったと思います。

みなさんの作品を読んでいますと、なぜ物を大事にするのか、そうするとどうなるのかということを知り、考えていることがよくわかります。地球の環境やそこに住む人に想像をめぐらし、未来への希望を持ってみんなで行動しようという意志が感じられました。みなさんの前向きな姿勢に、私も自分とつながる社会を見る目を育て、エシカルの輪を広げていこうと、力をいただきました。標語を通し、一人ひとりの「知る」「行動する」がよりよい未来をつくるのが、広く伝わっていくことと思います。921作品の思いにふれる、貴重な機会をありがとうございました。

審査委員 講評 京都市文化市民局くらし安全推進部消費生活総合センター長 酒井 庸充

「エシカル消費のタネ」消費者標語の募集に多くの作品をご応募いただきありがとうございました。

作品としては、身近な買い物に関する純朴で素直な気持ちを綴ったものから、私たちの未来への思いを綴ったものまで、大変幅広く、どの標語も応募者の思いが強く伝わってくる良い作品ばかりで、大変嬉しく思っております。

テーマ別としては「地産地消」では、京野菜など野菜の鮮度の良さや地域とのつながりの大切さ、輸送エネルギー削減につながることを伝えたい作品、また、「エシカル消費を広めよう」では、エコバックの使用や、「てまえどり」といった食品ロスの削減を呼びかける作品が多く見受けられました。いずれのテーマでも共通することは、環境問題や人と社会とのつながりを強く意識したものでした。

また、部門別としては、小学生の部、中学生の部では、学校での学びがよく伝わってきました。環境や社会と自分のつながりを「知る」「学ぶ」ことが倫理的に自ら考え、選択するエシカルな消費生活の始まりであり、その気づきをたくさんの人に伝えたいという気持ちや、自ら率先して行いたいという思いが強く感じられる作品が多くありました。

一般の部では、実際に消費生活を営む中で感じたことや、社会環境や未来に目を向けた作品、また、学校での学びを思い出して標語にした作品などが見受けられ、エシカル消費の広がりを感じました。

結びに、皆さんが標語に込めた思いがより多くの方々に伝わり、エシカルな消費生活が広がることで、人と社会のつながり、環境や生態系の保護、地域の活性化など、様々な面から私たちの未来がより輝きのあるものとなりますよう心から願っております。

◆ 令和6年度 募集概要

名 称	エシカル消費のタネ
テ ー マ	①地産地消 ②エシカル消費を広めよう
募集点数等	1人2点まで（テーマの組合せは自由）
応 募 資 格	京都市内に在住又は通学（通勤）している小学生・中学生・一般の方
募 集 期 間	令和6年7月1日から9月12日まで

◆ 応募状況

小学生	応募者数	52名	作品数	77点
中学生	応募者数	479名	作品数	820点
一 般	応募者数	13名	作品数	24点
計	応募者数	544名	作品数	921点

テーマ	小学生							中学生				一般
	作品数	学年						作品数	学年			作品数
		1	2	3	4	5	6		1	2	3	
① 地産地消	21	0	1	1	2	1	16	434	142	286	6	11
② エシカル消費を広めよう	56	3	1	1	1	32	18	386	103	272	11	13
計	77	3	2	2	3	33	34	820	245	558	17	24

◆ 審査委員（敬称略・順不同）

京都市小学校家庭科教育研究会会長（京都市立祥栄小学校校長）	中村 薫
京都生活協同組合 副理事長	姜 美名
京都市文化市民局くらし安全推進部消費生活総合センター長	酒井 庸充

(動画) エシカル消費って何？



(動画) エシカル消費 (サステナブルファッション編)



令和6年度

エシカル消費のタネ 消費者標語 入選作品集

令和7年2月

発行：京都市文化市民局くらし安全推進部消費生活総合センター

〒604-8588

京都市中京区西堀川通御池下る西三坊堀川町521 中京区総合庁舎3階

TEL (075) 366-2250 FAX (075) 366-2259

ホームページ <https://kyoto-ethical.com>



「身近でできるエシカル消費」
～倫さんのお買い物編～



京都市印刷物第 064828号

ベジタブルインクを使用しています。